

2009年度の進路状況・就職状況について

中野春美

2008年のリーマンショックによる景気の悪化の影響から、2009年度は大学生にとり就職環境は極めて厳しいものとなった。

文部科学省発表の学校基本調査（2010年5月1日現在）の速報によると、2009年度卒業者の就職率は60.8%（前年度比7.6ポイント減）であった。大学院等への進学率は13.4%（前年度比1.2ポイント増）、一時的な仕事に就いた者3.6%（前年度比1.3ポイント増）、進学も就職もしていない者の比率16.1%（前年度比4ポイント増）となっている。

以下、本学における2009年度卒業生の進路状況・就職状況・その中でのキャリア支援課としての対策や学生への支援について報告する。

1. 進路状況（表1参照）

本学学生の進路は、文頭の学校基本調査のデータと同様の傾向を示し、卒業者における就職者の割合が減り、大学院等進学者の割合が増加した。

2006年度から82～83%で推移していた就職者の割合（就職率）が、76.8%（前年度比5.2ポイント減）となった。一方、大学院等進学者の割合は、10.8%と前年度比3.4ポイント増となった。それ以外の進路（専門学校・研究生・科目等履修生など）も増加した。

景気の影響が学生の進路に影響を与えていることが推察できる。それとともに本学の就職率の高さがわかる。

2. 就職状況（表2参照）

リクルートワークス研究所の調査によると、大学生の求人倍率の推移は、次のとおりである。2005年度－1.60倍、2006年度－1.89倍、2007年度－2.14倍、2008年度－2.14倍、2009年度－1.62倍。

2009年度は、2006～2008年度までの、学生にとって「売り手市場」であったところに比べると厳しい状況におかれたことがわかる。

本学の卒業生における就職希望者の割合は、78.7%となった。2007、2008年度は83%程度であったものが4ポイント以上減となった。しかし、この厳しい状況下においても就職希望者における内定率は97.6%、と売り手市場であった2007年度の99.0%、2008年度の98.7%に近い高い値となった。

就職先の特徴としては景気に左右されにくい教員・公務員の割合が増えた。企業については、今まで本学の卒業生が就職していない会社から内定を得るなど、学生が広い視

野を持って活動した様子が伺える。また、学生へのアンケートによると、会社選択で「安定性」や「将来性」重視の学生が増え、景気への不安感を持っていることがわかる。

一方、企業側は今まで以上に厳選採用の方針を打ち出し、内定を得る学生と苦戦する学生の二極化は年々顕著となっている。さらに、前年の内定取消問題もあり、企業は採用に慎重であった。採用数については、数あわせをせず、即戦力となる学生のみ内定を出した。採用に十分値する学生であっても意欲や志望の高さが企業に伝わりにくい学生は、なかなか内定に至らなかった。その結果、苦戦する学生の活動は更に長期化し、年明け以降に就職活動をしている学生は例年よりかなり多かった。

このような厳しい状況のなか、一部の大学では、卒業間近になっても内定に至らず、翌年度就職活動をするために留年する学生に対し、学費軽減措置などを行った。しかし、本学では、あくまでも卒業までに就職先を決める方針を貫いた。

2009 年度卒業生進路状況 (表 1)

| 学部 | 学科 | 卒業 | 就職 | 進 学 | | | 研究生・科目 等履修生 | 専門学校 | その他 |
|----------------------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|------|-------|
| | | | | 大学院 | 大学 | 計 | | | |
| 家 政 学 部 | 児童 | 76 | 65 | 3 | | 3 | | 1 | 7 |
| | 食専 | 36 | 31 | 3 | | 3 | | | 2 |
| | 食管 | 62 | 49 | 7 | | 7 | | | 6 |
| | 居住 | 47 | 37 | 8 | | 8 | | 1 | 1 |
| | 建築 | 46 | 32 | 13 | | 13 | 1 | | |
| | 被服 | 83 | 58 | 5 | | 5 | 2 | 4 | 14 |
| | 経済 | 73 | 62 | 4 | | 4 | | 1 | 6 |
| | 計 | 423 | 334 | 43 | | 43 | 3 | 7 | 36 |
| % | | 79.0% | 10.2% | 0.0% | 10.2% | 0.7% | 1.7% | 8.5% | |
| 文 学 部 | 日文 | 118 | 94 | 7 | 1 | 8 | | 3 | 13 |
| | 英文 | 141 | 120 | 9 | 2 | 11 | | 2 | 8 |
| | 史 | 113 | 88 | 12 | | 12 | | 1 | 12 |
| | 計 | 372 | 302 | 28 | 3 | 31 | 0 | 6 | 33 |
| | % | | 81.2% | 7.5% | 0.8% | 8.3% | 0.0% | 1.6% | 8.9% |
| 理 学 部 | 数物 | 105 | 71 | 20 | | 20 | 1 | 1 | 12 |
| | 物生 | 95 | 60 | 24 | | 24 | | 2 | 9 |
| | 計 | 200 | 131 | 44 | | 44 | 1 | 3 | 21 |
| | % | | 65.5% | 22.0% | 0.0% | 22.0% | 0.5% | 1.5% | 10.5% |
| 人 間 社 会 学 部 | 現社 | 106 | 85 | 8 | | 8 | 2 | 2 | 9 |
| | 社福 | 94 | 79 | 2 | | 2 | | 2 | 11 |
| | 教育 | 88 | 78 | 1 | | 1 | | | 9 |
| | 心理 | 68 | 30 | 19 | | 19 | 4 | 4 | 11 |
| | 文化 | 108 | 81 | 8 | 2 | 10 | 1 | 4 | 12 |
| | 計 | 464 | 353 | 38 | 2 | 40 | 7 | 12 | 52 |
| | % | | 76.1% | 8.2% | 0.4% | 8.6% | 1.5% | 2.6% | 11.2% |
| 合計 | | 1459 | 1120 | 153 | 5 | 158 | 11 | 28 | 142 |
| % | | | 76.8% | 10.5% | 0.3% | 10.8% | 0.8% | 1.9% | 9.7% |

2010 年 4 月 16 日現在

2009 年度卒業生就職状況 (表 2)

| 学部名・学科名 | 卒業生数 | 就 職 | | | | |
|---------|-------|-------|------|-------|------|-------|
| | | 希望者数 | 希望率% | 決定者数 | 決定率% | |
| 家政学部 | 児童 | 76 | 66 | 86.8 | 65 | 98.5 |
| | 食専 | 36 | 32 | 88.9 | 31 | 96.9 |
| | 食管 | 62 | 51 | 82.3 | 49 | 96.1 |
| | 居住 | 47 | 37 | 78.7 | 37 | 100.0 |
| | 建築 | 46 | 32 | 69.6 | 32 | 100.0 |
| | 被服 | 83 | 64 | 77.1 | 58 | 90.6 |
| | 経済 | 73 | 63 | 86.3 | 62 | 98.4 |
| | 計 | 423 | 345 | 81.6 | 334 | 96.8 |
| 文学部 | 日文 | 118 | 99 | 83.9 | 94 | 94.9 |
| | 英文 | 141 | 120 | 85.1 | 120 | 100.0 |
| | 史 | 113 | 93 | 82.3 | 88 | 94.6 |
| | 計 | 372 | 312 | 83.9 | 302 | 96.8 |
| 理学部 | 数物 | 105 | 71 | 67.6 | 71 | 100.0 |
| | 物生 | 95 | 60 | 63.2 | 60 | 100.0 |
| | 計 | 200 | 131 | 65.5 | 131 | 100.0 |
| 人間社会学部 | 現社 | 106 | 86 | 81.1 | 85 | 98.8 |
| | 社福 | 94 | 80 | 85.1 | 79 | 98.8 |
| | 教育 | 88 | 78 | 88.6 | 78 | 100.0 |
| | 心理 | 68 | 32 | 47.1 | 30 | 93.8 |
| | 文化 | 108 | 84 | 77.8 | 81 | 96.4 |
| | 計 | 464 | 360 | 77.6 | 353 | 98.1 |
| 合計 | 1,459 | 1,148 | 78.7 | 1,120 | 97.6 | |

2010 年 4 月 16 日現在

3. 就職環境悪化に伴う対策および支援

1. 2. のような状況において、キャリア支援課では、以下の新たな支援や対策を行った。

- 1) キャリアカウンセラーの増員をはかり、個別相談の充実とともに模擬面接やグループでの活動の振り返りなど 4 年次に対してのきめ細かなセミナーを開催した。
- 2) 他大学と連携をはかり、企業説明会を開催した。不況下において、4 年次の夏以降は、単独大学で学生支援を行うには限界があるため、明治大学・中央大学・法政大学・本学の 4 大学が連携し、合同企業説明会を 2 回開催し、学生の内定に結びつけた。
- 3) 学生対応窓口の延長期間を設けた。学生から授業や就職活動の後などに相談を受けたいとの要望を受け、窓口延長期間を設けサービスの向上を行った。

2009 年度の特筆すべき点は、厚生労働省や経済産業省などの公的機関が学生の就職対策に積極的に大学へ働きかけを行ったことである。本学でも 1) 2) の一部はこれら

の支援を利用した。また、未内定者向けに、長期間助成金を受けながら中小企業で職場実習を行い、企業とマッチングをして正社員への道を作る制度も実施された。本学では制度登録者の報告は若干名であり、この制度を利用して正社員を目指している報告はなかった。

今後の学生への支援について

学生に接して感じていることは、インターネットでの情報取得が得意な反面、自分の足で生の情報を取りに行くことを怠る傾向があることである。自分に自信がない、自分で決断できない、個性を出すことを嫌う、コミュニケーションをとることが苦手、メンタル面で弱い、などの学生も増えている。従って、就職活動においては、自分を掘り起こす作業や自己表現の手伝い、精神面でのケアなど、キャリア支援課における学生への対応件数は年々増加している。本学では、カウンセリングセンターや学科などと連携しながら学生支援を行えていることはありがたい。しかし、今後も就職環境の急激な好転は見込めない中で、個々の学生への手厚い対応は益々重要になってくる。

本学でのキャリア教育の浸透により、低学年から気づきや自己表現の場を経験し、自ら考える力、人と話す力等を養い、学生一人ひとりが自らの将来を考え、就職にも結びつくことを期待したい。

(なかの はるみ キャリア支援課課長)